古都・事・言　3つの「こと」を伝えます

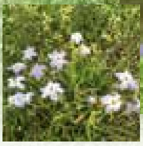
ことねぎだより

NO.145
2019年6月号
TEL：075-601-0668
こと京都株式会社

言葉で感じる季節

梅雨（ばいう）を読み下した言葉。読み方を変えるだけで雅な印象になりますね。青々とした新緑に降り注ぐ雨が思い浮かびます。梅の実が熟す頃の長雨なので梅雨と書くようになったとか。

畑のねぎたちも、ひと雨ごとにツヤっぽく、青々しく色付く様子もこの梅の雨の季節ならでは。



亀岡や美山などの山間エリアへの移動も増えてきました。隣の畑では田植えを行っている農家さんがいらっしゃたり、川で鮎釣りを楽しんでいる人など初夏の訪れを感じながら作業を行っています。

今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

先月に引き続き主に市内と亀岡圃場のねぎを送り届けます

今年はいつもより葱坊主が大変多く、収穫や調整などに手間がかかり大変苦労しました。
そういった状況で、6月分を少し早めに収穫する必要にも迫られましたが、
そこはグッと我慢して畑で栄養を蓄えるように生育しています。
6月にお届けするねぎは3月に植えたもの、気温上昇とともに
元気に育つのを農人一同心待ちにしていたねぎです。
暖かな春の日差しを浴びて空に向かってイキイキと伸びた春葱、
京の葱畑を思い浮かべながらご賞味ください＊

春葱

農人たちの畑での作業の様子、THE 農業！の現場の「こと」を発信

美山での夏準備と梅雨

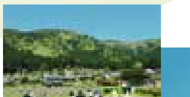
美山地域では、夏頃のねぎをお届けすべく、作付け作業が中心になっています。初夏の時期、雨が多いので作業が計画通り進まない恐れがあったり湿気も多くなったり、それが原因でベト病など病気も発生しやすくなるので心配しています。そのために5月中旬頃から防除や葉面追肥などを行い、未然防止できるよう農人みんなで努めています。

今年入社した若手の農人たち、日増しに肌が焼けて黒くなりつつあり、最初の頃は毎晩筋肉痛になり苦労していたものの、最近は徐々に体力もつき慣れてきたようです。心にも余裕を持って、日々ねぎに感謝をして、収穫や草引きなどを行っています。

競ったり、自分に課題を課しながら

美山での田植え、気候の良い環境で順調に

美山でコメ作りを始めて3年、年々面積も増やして作付けしています。5月は日本中で田植えのシーズン。朝から陽が落ちるまで美山で田植えや管理作業。

田植えをした畑にはアカハラやカエルが住み、生き物にとっても環境の良い畑だと言ってもらえているみたいです。

この時期は気候も良いのでバイクでツーリングされている方が多く、『何つくってるんですか?』と声を掛けられることもあります。